

2025年10月24日

2025年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

米国関税の影響が懸念され、産業景気は足踏み

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、9月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2025年7～9月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「建設」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種、『低調』が「住宅」の1業種だった。
- 『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2025年10～12月期の見通しについては、引き続き『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」が『順調』から一段階下降して『普通』となるため、『好調』が1業種、『順調』が1業種、『普通』が12業種、『低調』が1業種となる見通し。
- 製造業全体では価格転嫁の浸透で出荷額が押し上げられ、底堅い推移が見込まれるものの、輸出ウエートの高い業種では米国関税政策に伴うマイナスの影響が懸念される。消費関連業種は、生活必需品を中心とした物価の上昇が続くとみられ、販売数量は減少が避けられないものの、売上全体はプラスを確保する模様。
- 本調査と同時に実施したアンケート調査によれば、トランプ関税による今期売上への影響について、輸送用機械を中心に、半数近い企業が売上減少を見込んでいる。

業 種		業 界 天 気	
		現況 (7-9月)	見通し (10-12月)
製 紙			→ 
食 品 ・ 飲 料			→ 
工 作 機 械			→ 
民生用電器部品			→ 
自 動 車 部 品			→ 
二 輪 車 部 品			→ 
建 設			→ 
住 宅			→ 
大 型 小 売 店			→ 
自 動 車 販 売			→ 
物 流			→ 
情 報 サ ー ビ ス			→ 
人 材 派 遣			→ 
観 光 ・ レ ジ ャ ー			→ 
外 食			→ 

※本件のお問合せ先 田原

〈11月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2025年10月）」
「静岡県内企業 冬のボーナス予想」

米国関税の影響が懸念され、産業景気は足踏み

業界景気の現況（2025年7～9月期）

県内産業の現況（2025年7～9月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「建設」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種、『低調』が「住宅」の1業種、『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2025年10～12月期）

10～12月期の見通しについては、引き続き『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」が『順調』から一段階下降して『普通』となるため、『好調』が1業種、『順調』が1業種、『普通』が12業種、『低調』が1業種となる見通し。製造業全体では価格転嫁の浸透で出荷額が押し上げられ、底堅い推移が見込まれるものの、輸出ウエートの高い業種では米国関税政策に伴うマイナスの影響が懸念される。消費関連業種は、生活必需品を中心とした物価の上昇が続くとみられ、販売数量は減少が避けられないものの、売上全体ではプラスを確保する模様。

業種ごとにみると、家庭用・業務用エアコンの生産は底堅い推移が見込まれる一方、冷蔵庫の落込みが懸念される「民生用電器部品」は『順調』から『普通』に下降する見通し。「自動車部品」は、ケイレッツにより濃淡があり、全体的に力強さを欠き『普通』で推移する。輸出ウエートの高い「工作機械」や「二輪車部品」では、米国の追加関税の影響を免れない一方で、合意成立に伴う不透明感の緩和は前向きに捉えられ、『普通』のまま推移する見通し。海外廉価品との競合は激しさを増すものの、値上げで売上増が期待される「製紙」、新商品投入が計画される「食品・飲料」も『普通』のまま推移する。

非製造業では、官民ともに旺盛なIT需要を取り込む「情報サービス」が『好調』、インフラ修繕や物流施設の整備など受注が好調な「建設」が『順調』を維持する見通し。飲料やレトルト食品を中心に多くの品目の値上げが販売額を押し上げる「大型小売店」、夏場に投入された新型軽自動車が販売を下支えする「自動車販売」、消費財の荷動きが底堅い「物流」、ボリュームゾーンである事務職の派遣が堅調な「人材派遣」、10月の万博終了がプラスに作用するものの、物価高が国内旅行客の回復を鈍くさせる「観光・レジャー」、値上げの浸透で単価上昇が見込まれる「外食」は、引き続き『普通』の見通し。「住宅」については、台風15号の被害に伴う修繕・建替え需要の発生が一部で見込まれるものの、建築価格高騰に伴う購入マインドの冷え込みが響き、『低調』のまま推移する見込み。

2025 年 10 ～ 12 月 期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業 種	業 界 天 気 現況 (7-9月) → 見通し (10-12月)	売 上 高 (前年同期比伸び率)	主 要 産 業 の 見 通 し
製 紙	 → 		円安下でもなお割安な輸入品の流入が生産を下押し
食 品 ・ 飲 料	 → 		新商品の投入などで食料缶メーカーの売上は前年実績を確保
工 作 機 械	 → 		関税交渉の決着を受け、受注額は堅調な推移が続く
民生用電器部品	 → 		エアコンは前年並みを維持するも、冷蔵庫は低調に推移
自 動 車 部 品	 → 		ケイレツ間で明暗、業界全体では力強さを欠く
二 輪 車 部 品	 → 		米国の関税政策の影響が顕在化し、受注は弱含む見通し
建 設	 → 		インフラ修繕や民間の省人化投資により、建設需要は好調に推移
住 宅	 → 		住宅購入マインドが低迷する中、原材料価格上昇への対応が課題
大 型 小 売 店	 → 		飲食料品の単価上昇に伴い、販売額は前年をやや上回る
自 動 車 販 売	 → 		夏に投入された新型の軽自動車が販売を下支え
物 流	 → 		消費関連は安定した荷動きだが、輸送量は前年をやや下回る模様
情 報 サ ー ビ ス	 → 		官民ともに旺盛なIT需要を取り込み、売上高は順調に推移
人 材 派 遣	 → 		事務関連や観光関連が下支えし、実稼働者数は前年を若干上回る
観 光 ・ レ ジ ャ ー	 → 		万博終了は県内にプラスだが、旅行マインドの好転は見込み難い
外 食	 → 		食材高に最低賃金の引上げも重なり、厳しい収益環境が続く

表の見方

業 界 天 気				売 上 高	
	好 調		低 調		非常に増加 (+10%以上)
	順 調		不 調		増 加 (+3～+9%)
	普 通				横 ば い (+2～△2%)
					減 少 (△3～△9%)
					非常に減少 (△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査『現況』推移

年 次	2022年	2023年				2024年				2025年		
四 半 期	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月 (○は調査月)	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
全業種の 平均階級値	2.93	2.93	3.00	3.13	3.07	3.07	3.07	3.20	3.20	3.33	3.20	3.20
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
(業 種 数)	好調	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	順調	2	3	4	3	2	2	3	3	3	2	2
	普通	7	8	7	11	12	12	12	12	11	11	11
	低調	5	4	4	1	1	1	0	0	0	1	1
	不調	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7～9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10～12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
調査時点…2025年9月上旬
回答企業…県内主要15業種(135社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製 紙

円安下でもなお割安な輸入品の流入が生産を下押し

【7-9月期】家庭紙の生産量は、好調なインバウンドによる業務用紙の需要の減少などから、前年を下回った。

【10-12月期】家庭紙の生産量は、好調なインバウンドを背景にトイレット紙で高稼働が目込まれる一方、安価な輸入品の流入により、全体では前年を下回る見込み。なお、売上高は値上げにより前年比増が見込まれる。

現 況

見 通 し

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→

→

操 業 度

需給バランス

製品在庫水準

原材料価格

製品価格

受 注 残

90%以上

均衡

適正

横ばい

上昇

0.1～1.5ヵ月

操 業 度

需給バランス

製品在庫水準

原材料価格

製品価格

受 注 残

90%以上

非常に需要超過

非常に過少

非常に上昇

非常に上昇

カ月

国内紙・板紙生産量(前年比)

衛生用紙

段ボール原紙

2024年

2025年

IV

I

II

7月

8月

注：2025年8月は速報値。(四半期、月) 資料：経済産業省

4

主要業種景況見通し

製紙

円安下でもなお割安な輸入品の流入が生産を下押し

【現況】



【見通し】



【10-12月期売上高】

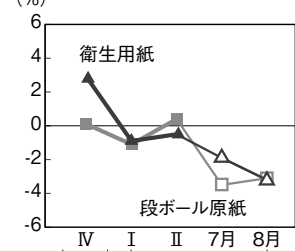
前年同期比 7-9月期比



【7-9月期】家庭紙の生産量は、好調なインバウンドによる業務用トイレ紙需要の増勢が一巡する中、円安下でもなお割安な輸入品の増加に伴う国内ティッシュ需要の減少などから、前年を下回った。板紙は、節約志向や猛暑による外出控えの影響から食品向けを中心に前年を下回った。

【10-12月期】家庭紙の生産量は、好調なインバウンドを背景にトイレ紙で高稼働が見込まれる一方、安価な輸入品の流入による国内ティッシュの低調さが続き、全体では前年を下回る見通し。板紙は、物価高により消費者の節約志向が残るも、食品向けを中心に前年を下回る見込み。なお、売上高は値上げにより前年比増が見込まれる。

国内 紙・板紙生産量
(前年比)



注：2025年8月は速報値。(四半期、月)
資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.5ヵ月

食品・飲料/製茶

新商品の投入などで食料缶メーカーの売上は前年実績を確保

【現況】



【見通し】



【10-12月期売上高】

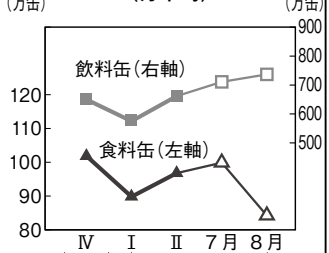
前年同期比 7-9月期比



【7-9月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、物価高による買い控えなどにより、前年割れとなった模様。飲料缶類の生産量は、ブランドオーナーからの受注が堅調で前年を上回った。製茶：茶商の売上高は、抹茶を手掛ける一部の業者を除いて、前年を下回った。

【10-12月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年実績を確保する見通し。新商品の投入などでツナ缶の需要は底堅く推移する模様。飲料缶類の生産量は、行楽など外出機会の増加で需要が上向き、前年を上回る見込み。製茶：茶商の売上高は、前年を下回る見通し。秋冬番茶の高騰で収益面の悪化も懸念される。

県内 食料缶・飲料缶生産量
(月平均)



(四半期、月)
資料：(一社)静岡缶詰協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1~1.0ヵ月

工作機械

関税交渉の決着を受け、受注額は堅調な推移が続く

【現況】



【見通し】



【10-12月期売上高】

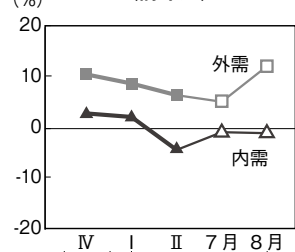
前年同期比 7-9月期比



【7-9月期】全国の受注額は、前年をやや上回った模様。メインの外需は、相互関税が15%に収まったことで米国向けの案件が動き出したほか、アジアや欧州向けも堅調に推移した。内需は、中小ユーザーの動きが弱く、受注確保に苦戦する県内メーカーが多くみられた。

【10-12月期】全国の受注額は、前年並みの水準で推移する見通し。依然として物価高が課題となるが、関税交渉の決着により先行き不透明感が緩和され、大手・中堅ユーザーを中心に堅調な受注環境が続く見込み。低調な内需も、人手不足や環境対策に向けた設備需要は底堅く、足踏みしていた案件の具体化が期待される。

国内 工作機械受注額
(前年比)



(四半期、月)
資料：(一社)日本工作機械工業会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~10.0ヵ月

民生用電器部品

エアコンは前年並みを維持するも、冷蔵庫は低調に推移

【現況】


↓

【見通し】

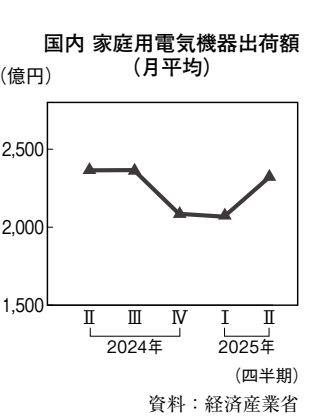

【10-12月期売上高】
前年同期比 7-9月期比

→ →

【7-9月期】 県内の家庭用エアコンの出荷台数は、全国的に気温の高い日が続き、高水準だった前年並みを確保した。また、業務用エアコンも旺盛な国内需要に支えられ、前年を上回った。こうした中、県内部品メーカーの受注量は前年をやや上回った模様。

【10-12月期】 県内の家庭用エアコンの出荷台数は、夏場にかけて需要が盛り上がった反動で、前年をやや下回る見通し。業務用エアコンは、北米向け輸出の一部が現地生産に移行するとみられるが、国内需要が底支えし、前年をやや上回りそう。冷蔵庫は、価格上昇による買い控えが懸念され、低調だった前年をさらに下回る見込み。

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品 価 格	受 注 残
90%以上	均衡	適正	横ばい	横ばい	1.0～3.0ヵ月



自動車部品

ケイレツ間で明暗、業界全体では力強さを欠く

【現況】


↓

【見通し】

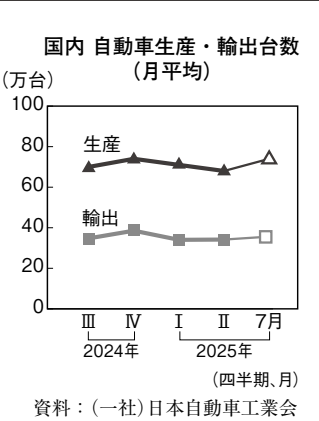

【10-12月期売上高】
前年同期比 7-9月期比

→ →

【7-9月期】 全国の自動車生産台数は、前年比△5%で推移した模様。トヨタやホンダは堅調に推移した一方、スズキや日産では販売不調により前年を下回るなど各社で濃淡があった。米国関税の影響は軽微であったが、県内の部品受注は全体として前年をやや下回った。

【10-12月期】 全国の自動車生産台数は、前年を△5%程度下回るとみられる。トヨタやスズキでは安定した生産が見込まれる。他方、日産は販売不振が続くとみられるほか、ホンダでは一部車種の生産が北米に移管される予定。米国関税の影響も不透明で、県内部品メーカーの受注量も前年を下回ることが懸念される。

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品 価 格	受 注 残
89～80%	均衡	適正	横ばい	上昇	0.5～3.0ヵ月



二輪車部品

米国の関税政策の影響が顕在化し、受注は弱含む見通し

【現況】


↓

【見通し】

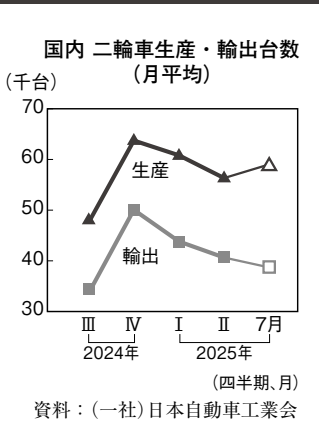

【10-12月期売上高】
前年同期比 7-9月期比

→ →

【7-9月期】 全国の完成車生産台数は前年を上回った。米国の関税政策の影響が足元で出始め、北米向けの生産が弱含みで推移した一方、新車種であるスポーツタイプの大型車の販売が好調だった。これを受け、県内の部品メーカーの受注量は前年をやや上回った。

【10-12月期】 全国の完成車生産台数は前年を下回る見通し。米国の関税政策の影響で、北米向けの生産が低調に推移する見込み。ホンダでリコールがあった主力ツアラーの問題が決着し、生産の回復が見込まれるものの、全体を押し上げるには至らず、部品メーカーの受注量は前年を下回る見通し。

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品 価 格	受 注 残
79～70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.1～1.0ヵ月



建

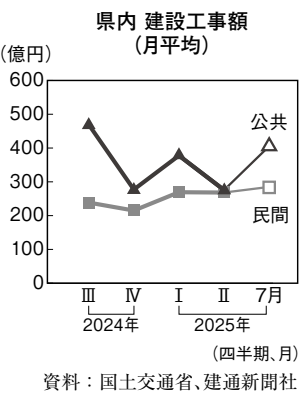
設

インフラ修繕や民間の省人化投資により、建設需要は好調に推移

【現況】
【見通し】

【7-9月期】 県内の公共工事契約高は、道路修繕や港湾整備といった土木工事の発注が続き、前年並みで推移した模様。民間の工事費予定額は、各地でスーパーなど商業施設の新設着工があった一方、昨年大型投資があった製造業で反動減が生じ、前年を下回った模様。

【10-12月期】 県内の公共工事契約高は、インフラ修繕需要の継続が見込まれるほか、水道管工事や学校施設の空調取付などの設備需要が押し上げ、前年をやや上回る見通し。民間の工事費予定額は、工場や倉庫の省人化に向けた設備投資需要が続くことに加え、運輸業で幹線道路周辺の物流施設整備が計画されており、好調に推移する見通し。



【10-12月期売上高】

前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	需要超過	—	上昇	上昇	6.0~18.0ヵ月

住

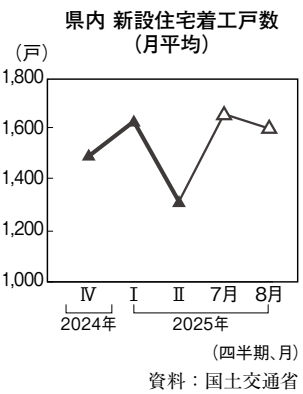
宅

住宅購入マインドが低迷する中、原材料価格上昇への対応が課題

【現況】
【見通し】

【7-9月期】 県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回った模様。東部での賃貸マンションの着工や、分譲住宅の開発が寄与し、貸家と分譲は前年をやや上回った。しかし、新築価格の高止まりや物価高等が重石となり、ボリュームゾーンを占める持家は低水準で推移した。

【10-12月期】 県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回る見通し。台風15号の影響により、一部地域では修繕や建替え需要の発生が見込まれるが、住宅購入マインドが上向く材料は乏しく、総じて戸建て需要は弱含みで推移すると見込まれる。住設メーカーによる値上げが続く中、供給側にはさらなる価格転嫁が迫られている。



【10-12月期売上高】

前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	6.0~12.0ヵ月

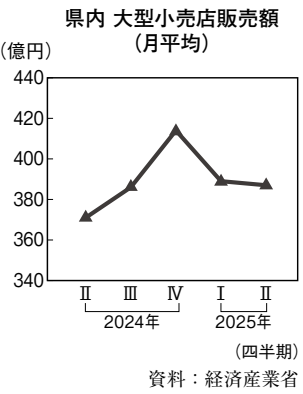
大型小売店

飲食料品の単価上昇に伴い、販売額は前年をやや上回る

【現況】
【見通し】

【7-9月期】 県内の総販売額は前年をやや上回った模様。百貨店は、記録的猛暑で日傘や夏物衣料が好調に推移し、前年水準を確保した。総合スーパーは、衣料品や住関連品が落ち込んだものの、主力の飲食料品の単価上昇を受けて、前年をやや上回って推移した。

【10-12月期】 県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。百貨店の販売額は、賃上げの浸透で実質賃金が改善に向かえば、ボーナス商戦や年末商戦の販売増加が見込まれる。総合スーパーは、米などの価格高止まりに加えて、飲料やレトルト食品等の値上げが予定されており、単価上昇に伴って販売額が押し上げられる見通し。



【10-12月期売上高】

前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

自動車販売

夏に投入された新型の軽自動車が販売を下支え

【現況】



【見通し】



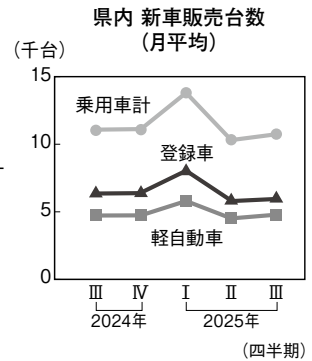
【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

【7-9月期】県内の新車販売台数は前年比△3.1%と減少した。認証不正問題の影響は収束したが、車両価格の上昇や維持コストの負担増加を受けて、販売台数は前年水準には届かなかった。また、中古車登録台数も微減傾向にあり、需要全体が伸び悩んでいる模様。

【10-12月期】県内の新車販売台数は、前年をやや上回る見通し。当期に発売される予定の全面改良モデルは少ないものの、夏に投入された人気の軽自動車が販売台数を下支えする見込み。一部のメーカーは増産体制を敷くことに慎重なスタンスで、人気車種を中心に納期の長期化が見込まれる。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	過少	上昇	上昇	1.0~10.0ヵ月

物流

消費関連は安定した荷動きだが、輸送量は前年をやや下回る模様

【現況】



【見通し】



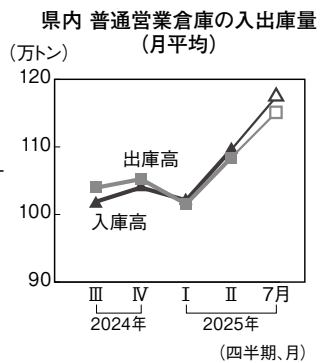
【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移した模様。紙・パルプや建設関連が伸び悩んだ一方、主力の輸送用機器が堅調に推移した。普通倉庫の入出庫高は、前年水準は確保したとみられる。電気機械や飲料が底堅く推移したものの、鉄鋼は前年を下回った。

【10-12月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや下回る水準で推移するとみられる。消費関連は底堅く推移するが、輸送用機器や紙・パルプなどは鈍化すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、年末にかけて食品関連で安定した荷動きが見込まれ、前年並みの水準は確保できる模様。



資料：静岡県倉庫協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

情報サービス

官民ともに旺盛なIT需要を取り込み、売上高は順調に推移

【現況】



【見通し】



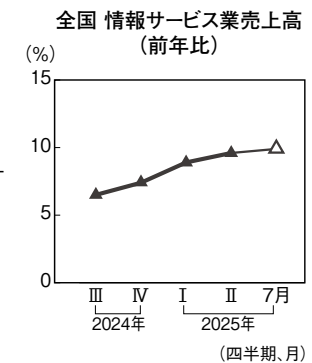
【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した。主力の受託開発ソフトウェアを中心に堅調な受注環境が続いた。県内では、県内外の大手・中堅企業や行政からの案件を中心にIT投資が拡大する中、人手不足で受注機会を逸失する事業者もあった。

【10-12月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。ユーザーの旺盛なIT投資やシステム更改需要を受けて、各社ともサービス価格の引上げを図る一方、必要な人員を確保するための人件費も上昇しており、収益が圧迫されやすい環境が続くとみられる。



資料：総務省「サービス産業動態統計調査」

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
89~80%	均衡	—	—	上昇	1.0~3.0ヵ月

人材派遣

事務関連や観光関連が下支えし、実稼働者数は前年を若干上回る

【現況】



【見通し】



【10-12月期売上高】

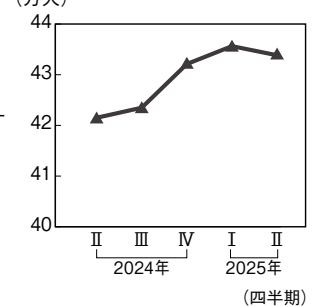
前年同期比 7-9月期比



【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をわずかながら上回った模様。メインである事務職の需要は底堅く、小売・サービス業向けも安定的に推移した。製造業も前年の自動車の認証不正問題による出荷減の反動で、前年をやや上回って推移した。

【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を若干上回る見通し。事務職で引き続き強い需要が見込まれるほか、ハイシーズンとなる観光産業でもイベント関連需要の拡大が期待される。製造業はトランプ関税の影響で自動車部品を中心に採用には慎重なスタンスが見込まれ、横ばいもしくは前年を若干下回る見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数
(月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

万博終了は県内にプラスだが、旅行マインドの好転は見込み難い

【現況】



【見通し】



【10-12月期売上高】

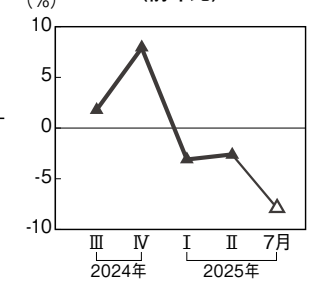
前年同期比 7-9月期比



【7-9月期】県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回った模様。書き入れ時である8月は、前年に台風や豪雨、巨大地震注意の発出等によって落ち込んだ反動で宿泊客数が大きく伸びたほか、インバウンドも堅調だった。一方、7月と9月は国内客の弱さが目立った。

【10-12月期】県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回る見通し。引き続きインバウンドは堅調な動きが見込まれるほか、10月に万博が終了することは県内事業者にとっては好材料となるが、物価高によって旅行マインドの好転を見込み難く、国内旅行者の回復は鈍いものとみられる。

県内 宿泊者数
(前年比)



(四半期、月)

資料：観光庁

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

外食

食材高に最低賃金の引上げも重なり、厳しい収益環境が続く

【現況】



【見通し】



【10-12月期売上高】

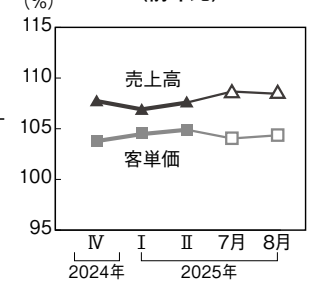
前年同期比 7-9月期比



【7-9月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、前年を上回った。値上げ効果に加え、猛暑により比較的高単価な季節限定商品がよく売れたことが要因。また、平年より早い梅雨明けで夏休みシーズンに好天が重なったことがプラスに働き、客数も伸びた。

【10-12月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、値上げによる客単価の上昇から前年を上回る見通し。ただし、さらなる値上げにより客足が一時的に鈍ることも予想される。また、食材価格が高止まりする中、11月以降は最低賃金の大幅な引上げによる人件費の増加も見込まれ、収益面で厳しい状況が続く見通し。

全国 外食売上高・客単価
(前年比)



(四半期、月)

資料：(一社)日本フードサービス協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

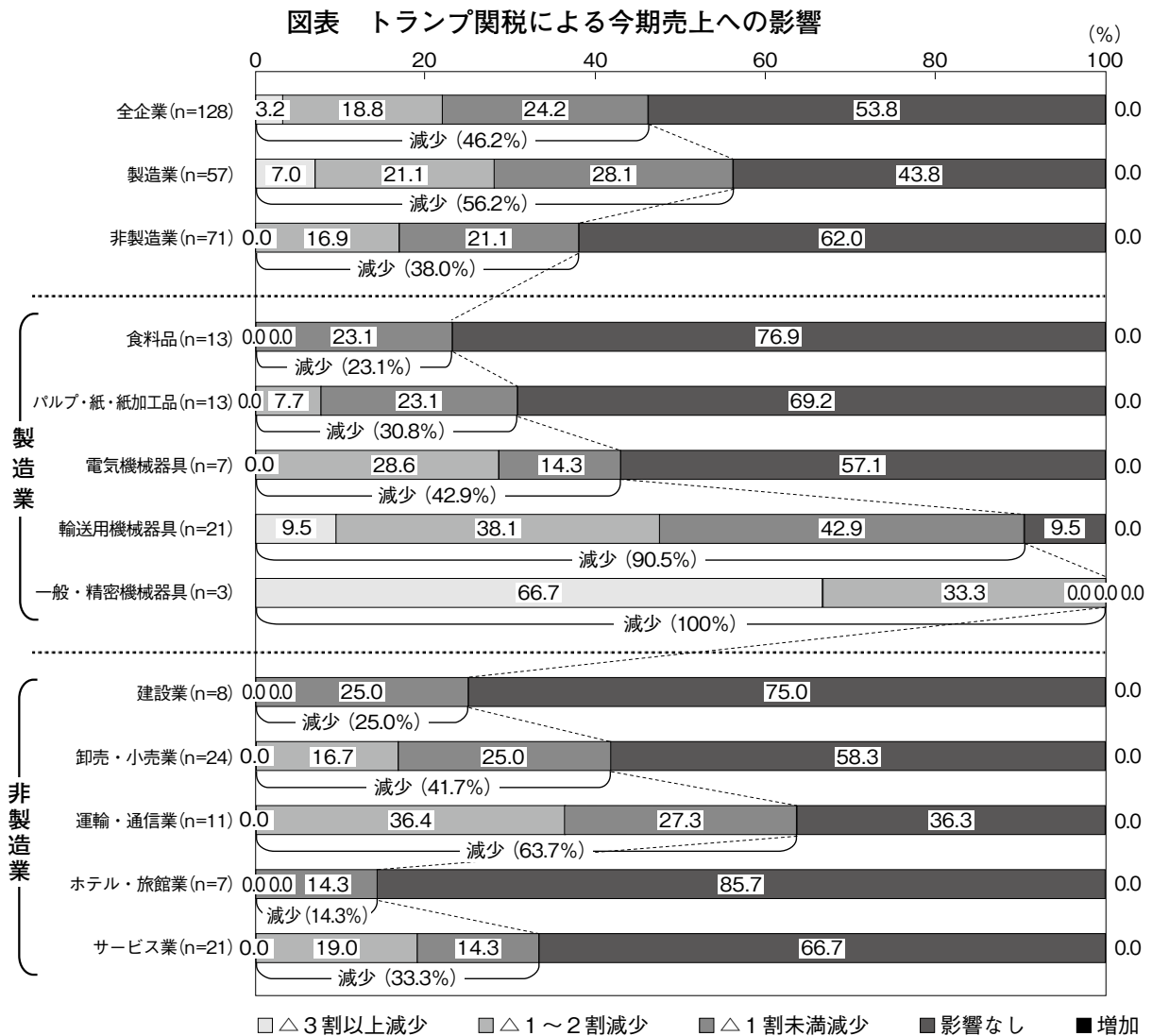
特別調査 トランプ関税の影響

輸送用機械を中心に、半数近い企業が売上減少を見込む

7月下旬、日米政府による関税交渉が合意に至り、相互関税および自動車税が15%で決着した。そこで県内企業にトランプ関税による今期売上への影響について尋ねたところ、“増加”の回答はなく、“影響なし”(53.8%)と“減少”(46.2%)に分かれた。減少の内訳は、“△1割未満”が全体の24.2%、“△1～2割”が同18.8%を占める。

業種別にみると、“減少”の回答は製造業で半数を超えた一方、非製造業は4割未満にとどまった。製造業のうち、内需を主力とする食料品やパルプ・紙・紙加工品では“減少”が2～3割にとどまった一方、輸送用機械器具は9割を超えるなど、明暗が分かれた。

非製造業では、自動車関連などの荷動きの停滞を警戒し、運輸・通信業で6割以上が減収を見込むほか、「トランプ関税により、各企業の設備投資計画が弱含みとなっている」(鉄鋼卸売業)など、輸出型製造業の減産や設備投資の見直しを起点とした影響の広がりが危惧される。



調査要領：調査時点2025年9月、調査対象企業580社、回答社数128社、有効回答率22.1%